1994. 6. 30

The Japan Academy of Midwifery Newsletter NO. 14

日本助産学会ニュースレター

発行所　日本助産学会
東京都千代田区富士見1-8-21
東京都助産婦会館内
〒102 電話03－3221－1020
FAX 03－3221－0417
代表者　近藤潤子

第9回日本助産学会学術集会の準備にあたって

第9回日本助産学会学術集会
会長　佐々木　敦　子

昨年の総会において第9回の学術集会にご推挙いただきましてから、早々に準備を進めてまいりました。

ご案内しましたように、来年の平成7年3月21日の春分の日に、松本市で、第9回の学術集会を開催いたします。

場所は、JR松本駅に近く、4～5分ほどお歩きいただきまして14階建てのすらりとした会場でございます。

皆様には日々の研鑽をお持ち寄りになり、助産婦の向上のために、お互い真剣に膝を交えて語り合いたいものと考えております。

演題の申し込みは、官製はがきに指定事項をご記入の上、なるべく早く送付してください。〆切は8月31日でございます。

学術集会を成功させるために、企画委員会を設けて、毎月1回委員会を開催し、準備のための必要な事項についての検討を行い鋭意努力をいたしております。

第9回学術集会事務局は、信州大学医療技術短期大学部においております。

意見や希望などについて、ご一報いただければ幸いでございます。皆様のご期待に添えるよう準備に努めてまいります。

今や世の中は見直し、評価の時代を迎え、国においても地域保健法の改正により、母子保健行政は市町村に移管されるよう計画されております。ニーズに即応したきめ細やかな施策が実施される中で、助産婦の役割が正しく評価されることが必要になっております。

従来から助産婦は地域において、家庭分娩、施設分娩を中心に根強い活動を展開し、母子をとりまく環境の変化に対応して、助産婦の専門的知識の上にさらに豊かな経験に裏付けされて充実発展し、ひたすら母子保健の改善に貢献して、地域保健の重要な役割を果たしてきました。

今後益々、女性のライフサイクルにおける支援や子育て支援における助産婦の役割は増大するものと考えられます。

母子に対するプライマリ・ヘルスケアの実践にあたり、助産婦教育の課程にも地域母子保健の教科が設けられておりますが、地域における助産婦業務の学問として、その見直しと理論の新たな構築が明確に示されることにより発展につながるものと考えられます。

そして、21世紀への原動力としての健全な母子の育成を目標に、一貫した保健施策の推進に、英知を結集し力を合わせて、助産婦の持てる専門的能力を最大限に発揮してゆかなければなりません。

この度の学術集会を松本市で開催するにあたり、長野県および松本市に開催についての案内と支援をお願いにまいりました。

今日まで助産婦が母子保健の問題について、実践を通して研究をかさねている学会の経過と現状を説明し、学術集会の趣旨について理解をしていただきました。

学会や助産婦の活動が、広く社会においても適正に評価されるよう、そのための方策の検討も必要であると思われ、努力すべきことの多さを改めて痛感させられました。

開催市の松本は、地方の中堅都市としてこれから益々発展が期待されておりますが、雄大な日本アルプスの山々に囲まれ、風光明媚な自然環境に恵まれたさわやかなリゾート地であり、また国宝松本城に代表される歴史と観光の魅力あふれる街でもあります。

高速交通網の整備、さらにジェット化時代に対応して空港の拡張工事も完了し、今年の7月からは北は札幌から、南は福岡からの直行便も就航することになりました。

皆様の旅行や宿泊等については、松本日本旅行がお世話をいたしますが、あらためてご案内をしますので利用してください。

お誘い合わせのうえ一人でも多くの方に参加をしていただきまして、助産婦の意のあるところを示し、有意義な学術集会となりますよう、よろしく皆様のご協力をお願い申し上げます。

ＩＣＭからのお知らせ

国際担当理事　松　本　八重子

ＩＣＭのロゴマーク（案）の募集

75年前に創立された国際助産婦連盟（ＩＣＭ）は、“助産婦が世界的な規模での女性とその家族への深い関わりを反映する象徴的なロゴマーク”を新しく募集しています。

ご存じのようにＩＣＭは各国、世界のあらゆる地域の助産婦の団体が加盟しており、会員である助産婦たちは多様な言語を用い、現存する殆どの文化を背負いそれを代表しています。

ＩＣＭの使命は女性たちと産まれてくる新生児、そしてその家族がそれぞれの住んでいる地域で出産年齢を通じてよい結果を得るという世界中の助産婦の目的と強い願望を達成することです。

ＩＣＭの目的は下記のとおりです。

- 世界中の国ぐにを通じて母子とその家族に提供するケアの基準をたかめる。
- 助産婦の団体とその国の政府との連携について要請があれば助言、支持する。
- 母性保健サービスの提供を推進する。
- 助産婦自身の権限に於いて専門職としての役割を発揮する。
- 国際的組織や機関の会合で助産婦を代表し、これらの組織、機関の長や理事会と直接の関係を保ち、助産にかんする諮問に応ずる。
- 地球規模で妊産婦と新生児の死亡率および罹病率の低下を達成する上での助産の有用性と助産婦の高い可能性を推進する。

■募集の条件

ＩＣＭのあらゆる出版物、制作物およびレターヘッドに使用して、一目でＩＣＭのものであることが分かり、世界的な助産の推進運動の強さと団結のすべてを伝達し、時の経過にも耐えうるロゴであること。

■応募方法

1994年9月末までにＩＣＭ本部へ図案を送付して下さい。著作権に伴う支払いはありません。また、応募作品はお返ししません。選考は1995年1月に行われ、採用されたロゴに対しては50ポンドの賞金が支払われます。

INTERNATIONAL MIDWIFERY MATTERS（ＩＣＭニュースレター）（英語）の直接定期購読ができるようになりました。

3月、7月、11月に発行予定で、1年分12英ポンドです。銀行小切手、郵便局本局からの国際送金為替でも送金できますが、手数料がかかるのでカードが最も便利です（ＡＣＣＥＳＳ／ＶＩＳＡのみ）同封の申し込み用紙で直接ＩＣＭ本部へお申し込み下さい。

EMPOWERING WOMEN EMPOWERING MIDWIVES
75
YEARS OF
GLOBAL
PARTNERSHIP
INTERNATIONAL CONFEDERATION OF MIDWIVES

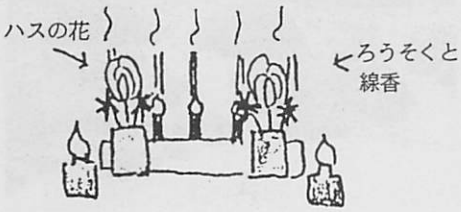
海外で働く助産婦

カンボジアからの便り

柴　山　晴　美

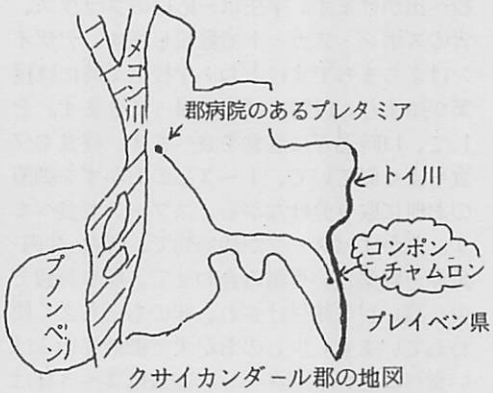
日本の皆様、いかがおすごしでしょうか。日本は今は春。とても清々しい季節ですね。こちらカンボジアは暑い。はっきりいって暑いです。お日様が頭のうえを通過している時はもちろん、夜も暑い。

この暑い中、カンボジアのお正月が4月14～16日とありました。仏教歴を元に毎年4月中旬に新年が祝われるそうです。カンボジアでのお正月とはどんなものかと、興味深々で村のホームステイ先でホストファミリーと共にお正月を迎えることにしました。今年は、神様が14日の朝4時29分に降りてくるとのことで、その時刻におばあさんが2階のベランダにお線香を立てて、お経をあげて新年があけました（毎年降りてくる時間が、違うそうです）。また、その日は朝早くから村のあちこちより大きな音の音楽が流れてきて、寝ているどころではないという感じ…それぞれの家の前には、花とロウソクとお線香でつくられた日本でいえば門松のようなものがおかれ、お正月期間の夜、灯をともします。日本のお正月に似ている所もあり、違うところもあり、お正月とお祭りが一緒になった感じを受けました。4月のこの暑い時期に新年と言う実感が私にはわかないのですが、ここのところカンボジア人と接していて「新年になるから」といって庭のそうじをしたり、「新年になったら…しよう。」というような会話を耳にし、日本の年末年始に感じる感覚をカンボジアの人々は今感じているのだろうなと感じました。



カンボジア風かど松

さて、話しは前後しますが、私がこの約2か月間経験したホームステイ先での話しをさせてもらいましょう。そもそも、村人の生活や健康問題を知ることは、カンボジアの人々と共に保健医療活動を考えていく上で大切なことだと考え、村で下宿をさせてもらうことにしました。私の下宿先は、クサイカンダール郡内のコンポンチャムロン村という所で、郡病院からバイクでとばして、45分ぐらい。ここのヘルスセンターのチーフの義理のお母さんの家に下宿させてもらいました。今回はこの家族の生活を通し村の様子を紹介したいと思います。



クサイカンダール郡の地図

この家は村の中で一番大きな仕立て屋で、「スエッチョアンおばさんのお店」といえば少し離れた村の人々も知っていると言う程、ちょっとした有名なお店。家族構成は、ロップおばあさんと長女のスエッチョアンおばさん、長男のユーさんとその奥さんのイエンさん、娘のシアモイちゃん、息子のソムリー君の6人家族。スエッチョアンおばさんは足が悪く、夫はいません。ユーさんの子供は2人でカンボジアにしては大変少ない方です。子供が5人以上というのはここでは普通。この家族はよく働きます。朝6時前には起きて顔を洗ったら、針を持ち、ミシンを踏み仕事を

はじめます。2、3日に一度はユーさんかイエンさんが朝バイクで、市場に出かけます。このコンポンチャムロン村の恵まれている点の一つはトイ川というメコン川の支流ぞいに村があって、水が豊富に手に入ることです。乾季に関しては使われている水は全て川の水です。水浴び・洗濯は川。飲み水は川の水を沸かして飲んでいます。その他生活用水は家の水瓶に川の水をためて利用しています。そして、恵まれている点のもう一つに市場が近くにあるということです。トイ川は県境にもなっていて、川向こうはプレイベン県で、この川に2年前にフンセンがコンポンチャムロン村とプレイベン県をつなぐ立派な橋を作り、この橋を渡ったプレイベン県側に毎日新鮮な魚・肉・野菜が手に入る市場がある事です。

朝食は、お粥をたいて牛肉の干物と一緒に食べたり、前夜の残り御飯で焼き飯を作ったりして軽くすませます。朝6時半頃には、シアモイちゃんは中学校へ、ソムリー君は小学校へ出かけます。学生は一応白のブラウス、青のズボン・スカートで登校します。デザインはまちまちですけどね…学校は7時には授業が始まり、11時には家に帰ってきます。そして、11時過ぎに昼食を食べます。昼食も夕食もよく似ていて、1～3品のおかずを御飯のお皿に取り分けながら、スプーンで食べます。おかずはスープか炒め物で、豚肉・牛肉・魚等と野菜という組み合わせで、塩や魚醤で少し濃い目に味付けされ、味のもともよく使われています。少しのおかずで御飯をいっぱい食べるというパターン。御飯は2～3杯は食べます。その後、庭でとれた果物が出てきます。ジャックフルーツ・バナナ・ミカン等。その他、マンゴウ・バナナ・パイナップル・ココナッツ・ザボン・パパイヤ等の木があります。多くの家庭は、家の前と裏にたくさんの果物の木を持っています。本当にこの村は楽園のような所です。

カンボジアの風習としては、午後2時頃まで休憩をするらしいのですが、ここの家の人々はほとんど休まず仕事にかかります。月・火は中学校は午後も授業があり、シアモイちゃんは学校へ。学校のない日は、子供達は中国語の学校に行きます。なんと、中国語の塾が市場の近くに、英語の塾が隣の村にあるとのこと。そして、夕方暗くなるまで仕事をして、水浴び後（水浴びは1日2～3回はします）、6時ごろ夕食。電気は来ていませんが、カーバッテリーを利用して、電気をつけ、テレビを見たりしています。なんとこの家族は夕食後も暗い電気の中、仕事。ロップおばあさんとソムリー君と私は9時ごろ寝にいきますが、他の人は10時ごろまで仕事をしています。ほんとに、頭がさがります。

村にいると、日々いろいろな発見がありとても楽しく過ごさせてもらいました。村の人々も親切で、私のつたないクメール語によくつきあってくれました。トイ川で子供とバナナの木を浮き袋がわりに泳いだり、子供とお寺にある木の実をとっていて注意されたり…

今回は下宿先での1日をご紹介しましたが、また、違う内容の村の話しをお送りしたいと思います。それでは、皆さん、お元気で…。

▼柴山　晴美

1990年に日本赤十字看護大学を卒業し、3年間武蔵野赤十字病院で助産婦として勤務しました。その後80日間ベビーヘルシー美蕾（瀬井助産所）で研修をして、1993年6月下旬に国際保健協力市民の会の派遣でタイに渡り、クメール語の研修を受けてカンボジアに赴任しました。カンボジアから4月に便りが届きましたので紹介しました。

住所：P.O.Box 127 SHARE Phhom Penh
Phhom Penh CAMBODIA

第8回日本助産学会総会報告

第8回日本助産学会総会並びに学術集会は、1994年3月19日(日)横浜市民文化会館、関内大ホールにおいて、460名余の参加者により盛会に開催されました。総会は13時00分より当日参加会員138名の出席のもとに、近藤理事長の挨拶により開会されました。

総会における報告・審議事項の要旨を報告します。

1. 平成5年度会員数について（1月末の状況）
   個人会員：1045名（普通会員1025名、特別会員20名）
   機関会員：14機関
   入会承認数：141名　　退会者数：62名
2. 平成5年度収支決算
   収　入 8,797,050円（繰越金、会費、雑収入ほか）
   支　出 6,909,385円（会議費、事業費、事務費ほか）
   繰越金 1,887,665円
3. 監査報告　3月17日に監査し、適切に処理されていると報告された。
4. 理事会報告
   * 臨時、書面会議をあわせて6回開催し、学会の運営・事業の推進・入会申し込み者の審査などについて審議した。本年度は、日本学術会議に登録され、所属の泌尿・生殖医学の会員候補者として近藤理事長、推薦人に宮里理事、次推薦人に松本副理事長を決定した。
   * 第10回日本助産学会学術集会会長として、三井政子岐阜大学医療技術短期大学部教授を選出した。
5. 庶務報告
   * 日本学術会議へ学術研究団体登録を行った（9月3日付けで登録を受理される）
     本学会は学術研究団体となったので、研究者の集団であるのにふさわしい団体の入会申込書を検討していく。
   * バンクーバー市でのICM国際評議会に日本助産学会代表として近藤理事長と小木曽理事が出席し、議事の審議・役員の選挙に参加した。大会会期中のスポンサーミッドワイフ集会で、近藤理事長が日本助産学会がスポンサーになったナイジェリアのエカエテ・ウモー氏と面談した。
6. 活動報告
   涉外委員会：第4回国際助産婦の日の行事実施について理事長、国際委員会、広報委員会と共に、日本看護協会、日本助産婦会と連絡をとった。
   会則委員会：日本助産学会評議員選出に関する規程について（平成7年度改正予定）規程第3条当該年度の会費納入期限を6月30日とすること、及び被選挙希望地域を登録制とすることなどの検討を行った。
   日本学術会議登録担当：
   日本学術会議、学術研究団体登録申請を行い、9月3日に登録された。（第7部、泌尿・生殖医学研究連絡委員会）詳細は、日本助産学会誌第7巻第1号1993に掲載した。
   広報委員会：ニュースレター第11号～13号を発行した。平成6年度の国際助産婦の日の行事実施について日本看護協会・日本助産婦会と協議し、ポスターの作成とリーフレットも作成し記念行事開催地へ支援として送付した。
   国際委員会：ICMとの事務連絡、資料・ニュースレターを翻訳し、本学会関係者へ報告または提供した。第23回ICM大会への参加ツアーを企画し、実施した。
   編集委員会：学会誌第7巻第1号を発行した。

学術振興委員会：1993年11月27日、第6回ワークショップを高知女子大学において「助産学研究の実際」のテーマで、研究3領域を設けて実施した。
業務・教育検討委員会：助産学会の目的と理想を明確にするための作業を行った。
ICM国際評議会報告：5月4日～11迄の国際評議会における報告と審議事項の概要（マリー・コブラン記念基金、スポンサーミッドワイフの継続、通用語について、ニュースレーター等の翻訳問題、財政問題など）の報告。
5月8日～10日のアジア・西太平洋地域会議の概要についての報告。
第8回学術集会準備：企画委員会、実行委員会を毎月1回設けて準備を致し、本日に至った。

7. 審議事項
平成6年度事業計画案
1）第9回学術集会開催
2）学会誌・ニュースレターの発行
3）助産学会に関する研究の振興
4）助産婦の業務・教育の検討
5）国際助産婦の日に関する事業実施
6）国際助産婦連盟及び関連団体との交流
7）運営に関する会議（総会1回、理事会5回、評議員会1回）
提案事項
日本助産学会創立10周年記念事業の企画・準備について
1）記念行事（1996.3月、第10回学術集会時に実施予定）
2）記念誌の発行
3）記念論文の募集
4）ロゴマークの制定（募集）
平成6年度予算案
収入　8,837,665円（繰越金、会費ほか）
支出　7,620,254円（会議費、事業費、事務費、予備費ほか）
繰越金　1,217,411円
上記について、1事項ごとに審議採決し、提案どおり決議された。

▼会場からの発言
助産婦の専門性について検討されているが、本学会においてもクリニカル・ナース・スペシャリスト（CNS）の検討を、業務・教育委員会または、本日提案されている「将来の助産婦のありかた検討」の所で考えていくように提案する。

▼理事長：CNSの検討としての提案として受けとめる。

引き続いて、第10回学術集会会長として評議委員会で選出された三井政子岐阜大学医療技術短期大学部教授を近藤理事長より紹介された。

▼次期学術集会長の挨拶
佐々木敦子信州大学医療技術短期大学部教授より、第9回学術集会が1995年3月21日（火）春分の日、松本に於て開催される紹介と参加案内の挨拶が行われた。

第8回日本助産学会評議員会開催報告

1994年3月31日（土）横浜市民文化会館、関内ホールにおいて、出席22名、委任状10名により開催され、総会提出事項の審議と、第10回学術集会長の選出が行われた。

（庶務担当理事　小木曽、文責　平澤）

日本助産学会ワークショップ・プログラム

▼日　　時　　平成6年8月27日(土)　9時30分～16時30分
▼場　　所　　札幌医科大学保健医療学部
札幌市中央区南一番西17丁目　TEL 011－611－2111

全体テーマ　助産学研究の実際

☆基調講演　　日本助産学会理事長　近藤　潤子
☆ワークショップ
領域：　1. 助産学研究の基礎
コーディネーター：聖路加看護大学　堀内　成子
2. レビューを用いた産婦の研究
コーディネーター：天使女子短期大学部　和田　サヨ子
3. 母性心理学研究領域　　不妊女性のコーピング
コーディネーター：高知女子大学　　岸田　左智
4. 思春期における研究　　思春期母性の発達危機
コーディネーター：神戸大学医学部附属病院看護部長　新道　幸恵
5. 助産研究領域　　産痛の測定用具と尺度に関する研究
コーディネーター：徳島大学医療技術短期大学部　　竹内　美恵子

＊お申し込み方法
(1) はがき、TEL、FAXで下記にお申し込み下さい。
〒770　徳島市蔵本町3丁目18-15
徳島大学医療技術短期大学部助産学特別専攻科
日本助産学会学術振興委員会事務局　竹内　美恵子
TEL (0886) 33-7405　FAX (0886) 31－9612
(2) 参加者は、6,000円、資料代その他 1,700円を現金書留でご送付下さい。 お申し込みは、7月23日までにお願いいたします。(資料は事前に配布させていただきます)。
(3) 参加される方々は、関心のある研究領域を選択して下さい。

参　加　申　込　書

研究領域		(1) 助産学研究の基礎　(2) 母性心理学研究領域　(3) 思春期における研究 (4) 助産研究領域　(5) 妊娠期における助産学研究		
		第1希望	第2希望	
氏　名				
自宅住所		〒 TEL		
勤務先	名称			
	住所	〒 TEL		

◆平成6年 第4回国際助産婦の日の記念行事が各地で開催される◆

第4回近畿地区

◆とき　1994年4月22日(金) 13:00～16:00

◆ところ　大津市生涯学習センター

主催　近畿地区(社)日本助産婦会
近畿地区日本助産学会
滋賀県看護協会

協賛　滋賀県産婦人科医会

後援　滋賀県

協賛　明治乳業・大塚製薬・アメジスト・カネソン・株式会社コーワリミテッド
大鵬薬品工業株式会社・ユース産業株式会社

****** 次　　第 ******

12:20　受付　開場
12:50　オリエンテーション
13:00　開会　会長挨拶・来賓挨拶
13:10　特別講演「最近の性教育と助産婦」
　滋賀大学教育学部講師　君和田　和一　先生
14:10　休憩
14:20　シンポジウム　テーマ「性教育と助産婦のかかわり」
　座長・滋賀県産婦人科医会性教育委員会　加藤　英子先生
　シンポジスト　助産婦の立場から　村田みつえ先生
　学校保健指導教師の立場から　石森由香里先生
　母親の立場から　望田はつ子先生
　保健婦の立場から　井上　千恵先生
16:00　閉会

第４回近畿地区国際助産婦の日の集いが、滋賀県大津市で436名（助産婦128名・看護婦22名・一般８名・助産婦学生278名）の参加を得て開催された。

この日は、助産婦とその業務について考える日であることは言うまでもなく、近畿地区２府４県にある助産婦学校14校に入学してきたばかりの学生達の親睦の場として、また先輩助産婦との交流の場として、年一回一同に会する日ともなっている。

プログラムは第１部にＮＨＫ「おかあさんの勉強会」などでおなじみの、滋賀大学教育学部講師の君和田和一先生に「最近の性教育と助産婦」と題して特別講演をいただいた。

第２部は「中学生の集団性教育をとおして考える」をテーマにシンポジウムが行なわれた。産婦人科の医師・養護教諭と連携をとり性教育授業に取り組み活動している施設内助産婦を中心に養護教諭・母親・保健婦の立場で意見が発表された。

大多数の助産婦が施設内に入りこんでその姿が見えないと言われている今、施設内助産婦であっても、病院内で分娩介助だけをする人ではなく地域で活動できるのだという事実と、性と生殖の専門家としての助産婦にもっと地域で活動するよう期待されているのだということを実感した日であった。　（文責　寺本　まり子）

第３回 国際助産婦の日 記念事業

西暦２０００年までに世界のすべての人々に安全な出産と健康な子供の発育を保障するための活動を展開しょう

講演「女性のライフサイクルと心の発達」

―人生の正午からの自己実現をめざして―

金沢大学工学部講師（心理学）

留学生教育センター、保健管理センター・カウンセラー

八重沢美知子先生

日時：平成６年４月２３日(土)

相談　13:00～14:00

講演　14:00～15:30

場所：石川県女性センター

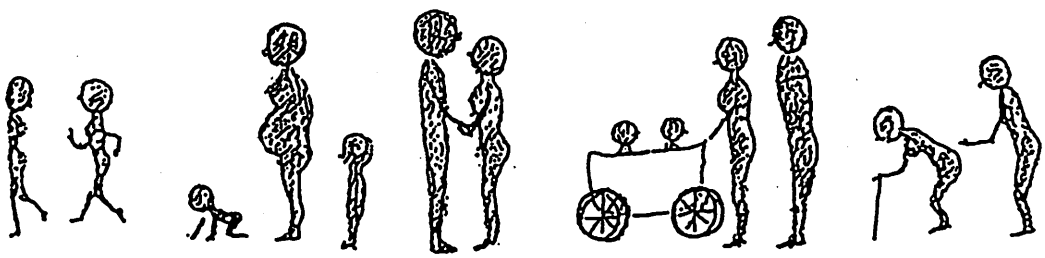
２階大会議室

金沢市三社町１－４４

☎（0762）31－7331

相談・ビデオコーナー

相談・ビデオコーナーを設けています。妊娠中、産後、子育て、その他自分の健康で気になっていること、悩んでいることをお気軽に御相談下さい。またニューパパ・ママお二人でビデオコーナーも御利用下さい。



主催　石川県看護協会助産婦職能

実施　日本助産婦会石川県支部

　　日本助産学会

後援　北国新聞社

「国際助産婦の日」愛知県第三回集会

ご　案　内

メインテーマ　「私のお産」

主催　『国際助産婦の日』愛知県第三回集会実行委員会
　実行委員長　田中　房子
　　社団法人　日本助産婦会愛知県支部
　　社団法人　愛知県看護協会助産婦職能
　　日本助産学会
　　愛知県助産婦教育協議会

1. 期　　日　　平成6年4月23日(土) 12:00～16:00

2. 会　　場　　名古屋市女性会館（愛称イーブネット）3Fホール
　　名古屋市中区大井町7番地25号

3. プログラム
　Ⅰ　基調講演『いのちの尊さ』
　　講演者　徳永　瑞子助産婦
　　講師紹介：福岡県生まれ、アフリカ・ザイール共和国で助産婦活動に従事、帰国後、国立公衆衛生院で研究課程に在籍、非常勤講師を兼務
　　アフリカ友の会を結成、エイズと共存できる社会を目指し活躍中
　　著書：『プサ・マカシ』カネボウヒューマンドキュメンタリー大賞受賞
　　『ザンペ』『エチオピア日記』
　Ⅱ　パネルディスカッション
　　テーマ『私のお産』　　座長　橋戸奈津子・佐藤達子
　　パネリスト　森　　節子　「子を産み育てること＋仕事＝私」
　　加藤　真理　「3匹のこぶた はうす との出会い」
　　岡田　　英　「不妊治療のピリオドは誰がうつのか」
　　藤川　敦子　「私の求めていたお産」
　　窪川外喜子　「アメリカでの出産体験から自然分娩へ」

4. 参 加 費　　助産婦：1000円
　　一般参加：500円（看護婦、学生を含む）
　　※当日受付でお願いします。

5. 開催状況
　参加数155名（一般女性22名、助産婦学生32名、助産婦101名）
　集会は、ザイールの民族衣装を着用しての徳永さんの講演と5人のパネラーの「私のお産」についての報告は、会場と一体感のある雰囲気で進行し充実した時間となった。
　当日参加者から募金した36,197円はアフリカの母子支援のために、徳永さんを通じてアフリカ友の会へ寄付した。
　今後の集会へ一般女性の参加数を増やすことが課題となっている。（文責　小木曽みよ子）

1994年 5月5日　　企画・運営／ジモン

「国際助産婦の日」

▼日　時　　1994年5月5日(祝) PM1時～4時
▼場　所　　東京都ナースプラザ（日本薬学会長井記念館6階）
　　渋谷区渋谷2－12－15

■内　容
- パネル展示「助産婦のしごと」
  （助産婦の定義・助産婦になる道・助産婦の現状・出産の現状）
- 写真展「助産婦の手」
  （写真家　宮崎雅子氏・きくちさかえ氏、助産婦が撮った助産婦の写真）
- ビデオ上映「日本のお産事情」（助産院出産／家庭出産／水中出産）
- トーク　「世界のお産事情」　きくちさかえ氏　PM1時～2時
- 助産婦なんでも相談コーナー（お産・母乳・育児）
- 情報コーナー……開業助産婦、助産院紹介
- 助産婦グッズ販売（バッジ・Tシャツなど）
- 書籍販売コーナー（助産婦・出産・育児関連の書籍）

お茶を飲みながら おしゃべりしませんか

★第1部
PM：1時～2時

『世界と日本のお産事情』

スライド＆トーク

きくちさかえ氏（マタニティ・コーディネーター）

ティータイム

★第2部
PM：2時半～

トーク・セッション

『語ろうよ。お産』

＊発言者はあなた自身です。
＊こんなお産がしたいという妊婦さん
＊私のお産はこうでしたという体験者の声、日々格闘中の助産婦さん
＊悩み、提案、etc…あなたの胸のうちをぜひ語って下さい。

■参加費　　500円（お茶菓子付き）

後援　　東京都看護協会
　　日本助産婦会東京都支部
　　（五十音順）

「国際助産婦の日」発足４年目にして、東京で大々的なイベントを開催した仕掛人はジモン（Japan Independent Midwives Organized Network)の会である（助産婦雑誌Vol. 48, No. 4 に紹介）。ジモンの会が「助産婦皆で手を結びたい」「助産婦職をもっと社会にアピールしたい」を目標に、会場、費用、イベント企画など、ゼロから出発し東京都看護協会や日本助産婦会東京都支部の協力を得ると共に、会場も東京都ナースプラザを提供してもらい計画を確実にした。テーマを「助産婦－女性とともに」として多くのボランテアの協力の元に、宮崎雅子氏やきくちさかえ氏の写真展や、「助産婦の仕事」のパネル展、助産婦のケアサービスの紹介、自宅出産や水中出産のビデオコーナーなど、盛り沢山の内容が紹介され多くの語らいが行われた。ジモンのオリジナルグッズも販売され、和気合い合いの中で母親同志、助産婦同志、母親と助産婦の意気が統合されたようである。参加者は400人余（300人の来館者、ボランテア100人余）助産婦は開業、勤務助産婦合わせて70名と大盛況であった。

（文責　相原　真弓）

第四回国際助産婦の日記念行事の実施について

徳島国際助産婦の日記念行事実行委員会
代表　竹　内　美恵子

徳島県における第四回国際助産婦の日の記念行事は、日本助産学会の企画、担当のもとで、日本助産婦会徳島県支部、徳島県看護協会の共同事業とし６月４日(土)「アスティとくしま」において245名の参加者を迎え開催した。

本年は、国際家族年をも記念して、子どもから高齢者の方々が、妊娠、出産、育児を通してふれあいを大切にしつつ、心豊かに生きるための方策を問い直すために、フォーラム：明日を築く子産み子育て ― 家族とともに ― をテーマに掲げ開催した。プログラムは、基調講演、明日を築く子産み子育てと題して、国政の場での方策を参議院議員の乾晴美先生が文部省、厚生省、労働省、建設省の各省庁による検討課題と将来に向けてのあり方が提示された。次いで、西暦2000 年に向けて、出産・育児・豊かな家族をテーマに、シンポジウムを展開した。司会は、きめ細やかな助産婦のしごとの翻訳者、青野冴子先生により温かい雰囲気のなかで活発な意見交換が行われた。カナダのスーザン・テナントさん、イギリスのピーター・リビングストンさんは、出産と育児、父親の育児参加のあり方の提言の中で、「母親として、父親としての役割を分かち合い、親役割を主体的に実践することにこそ明日を築く子産み子育ての鍵がある」ことを指摘した。一方、助産婦活動を通してオーストラリアのモエラ・メイさんと日本、アメリカでの出産・育児体験をされた助産婦である伊藤百合子さんより、家族のきずなを深めることが、出産、育児、豊かな家族へと導かれるとの提言が行われた。最後に、司会者である主婦業30年の青野冴子先生は、それぞれの女性が体験するさまざまな出産、育児体験が、楽しい子産み子育てに導かれるために、次の世代に向けて継続的に論議を深めることの課題を提案された。すべての講演は、同時通訳により進行しさまざまな家族のあり方についての自由な意見交換が行われた。また、この模様は、ＮＨＫ四国放送によるテレビ報道と、朝日新聞、徳島新聞により、助産婦による活動として紹介された。

なお、第１回より開始したユニセフ募金「世界の母子への援助」には、23,830円の募金が寄せられた。

最後に、記念行事開催にあたり、徳島県、徳島市をはじめ21後援団体から寄せられたご支援に、心から感謝を申し上げつつ報告する次第である。

■プログラムの概要

1) フォーラム：明日を築く子産み子育て ― 家族とともに ―

(1) 基調講演　13時～13時30分

明日を築く子産み子育て　国政の場から　参議院議員　乾　晴美 先生

(2) シンポジウム：西暦2000年に向けて

出産・育児・豊かな家族　13時40分～16時00分

司会　青野　冴子 先生

出産と育児（カナダ）　スーザン・テナント先生（カナダ）

オーストラリアからの提言　モイラ・メイ先生

父親の育児参加（イギリス）　ピータ・リビングストン先生

日本、アメリカでの出産・育児体験から　伊藤百合子先生

特別発言者：ナシュマ・チュドリー先生（バングラディッシュ）他

2) 家族のための育児相談、母子相談、女性の健康相談　16時00分～16時30分

3) ユニセフ募金「世界の母子への援助」

投稿〆切日近づく!!

（学会誌第8号1巻）

＊投稿〆切日は例年通り　7月31日(日)です。

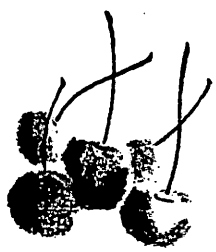
＊投稿先　〒102　東京都千代田区富士見1－8－21

日本助産学会 事務局宛

＊原稿は3部送って下さい。その他は投稿規程を参照して下さい。

＊投稿〆切日等、投稿についての相談に応じます。

相談先　044－200－2433（青木）



第９回日本助産学会学術集会 開催のご案内

第９回日本助産学会学術集会はメインテーマ「地域保健を担う助産婦」のもとに、下記とおり開催いたします。有意義な学術集会となりますよう、多数の皆様のご参加と演題の申し込みをお待ちしております。

会長 佐々木敦子

1．期　　日　1995年3月21日（火曜日・春分の日）　9：30～17：00

2．会　　場　ホテルブエナビスタ　松本市本庄１－２－１（松本駅より徒歩４分）

3．プログラム　＊一般演題　口演　示説（ポスター・ビデオセッション）
＊会長講演　＊シンポジウム等　＊日本助産学会総会

4．学術集会参加・懇親会参加・昼食希望の申し込みについて
1）学術集会参加費　　８０００円（１９９５年１月２０日以降は　９０００円）
2）懇親会参加費　　８０００円（会場はホテルブエナビスタ）
3）昼食費　　お弁当２５００円　昼食券は事前にお送りいたします。
ご希望の方は予め学術集会参加と同時に申し込んで下さい。
4）学術集会参加費・懇親会参加費・昼食費の振込
会員には郵便振込用紙を送付しますので参加希望の方は、一人で１枚を使用して申し込んで下さい。
5）参加申し込みをされた方には、第９回日本助産学会学術集会集録を事前に送付する予定です。

演題募集要項

1．申し込み資格　共同研究者も含めて全て会員に限られています。

2．発表形式　口　演――口頭で発表を行い、スライドが使用できます。発表時間約１０分。
座長の司会で、質疑応答を行います。
示　説――研究内容を掲示板を用いて発表します。
研究者を囲んで、直接自由討論ができます。

3．申し込み方法　下記の事項を官製葉書に記入し、1994年8月31日（水）＜消印有効＞までに送付して下さい。

1. 演題名
2. 研究者名（共同研究者も含む）
3. 日本助産学会会員番号（共同研究者も含む）
4. 連絡先　　氏名・郵便番号・住所・電話番号

4．原稿の提出　集録は写真印刷にします。出来上がりはＢ５版です。
原稿は　Ａ４版、４３字×４０行、２段組、片側２０字とし、中心３字の空きをおきます。図表を含めて４枚以内とします。
演題申し込みの方には、あらためて執筆要領を送付します。
原稿は1994年10月31日（月）＜必着＞までに送付して下さい。

5．申し込み先

〒３９０　長野県松本市旭３－１－１
信州大学医療技術短期大学部
第９回日本助産学会学術集会事務局
TEL　０２６３－３５－４６００
（内線３５８１・３５８２・３５８０）
FAX　０２６３－３２－６０２３

※全国助産婦学校協議会・日本助産学会事務員（臨時）変更のお知らせ

平成５年６月採用の高田恵美、土田桂子の両氏に変わり、平成６年６月より水本信子氏が採用されました。

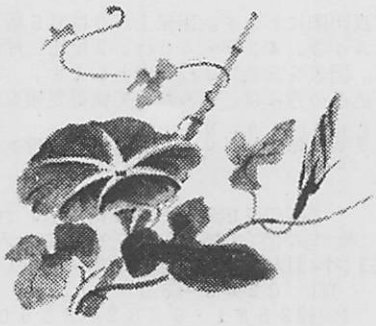
勤務曜日：月、火、木、金の週４日
勤務時間：午前10時～午後４時

※日本助産学会郵便振替口座変更のお知らせ

郵便振替口座が５月から変更になりました。新様式の払込書を利用の場合は、次の口座番号を記入して下さい。

新　００１００－５－８３２４４
旧　東京　０－　８３２４４

変更理由：郵便振替通常払込み新処理システム導入

事務局だより

＊平成６年度の事業が開始されます。本年度の総会に於いて日本助産学会でもＣＮＳの検討をと提言され、母子保健を担う助産婦の継続教育のありかたが問われております。
＊助産婦が地域活動をどのように行っていくべきかは大きな課題です。１人でも多くの後輩を育てながら、専門職としての能力を維持向上させるために、本学会がどのような役割をおうべきか、会員１人１人が考え試案を出して実践に結び付ける努力をしていかなければなりません。
＊第９回の日本助産学会学術集会の演題が募集されております。ふるってご応募下さい。
＊今年の学術振興のワークショップは札幌です。北海道の大自然に親しみながら関心ある研究領域に是非参加して下さい。